

平成 30 年度第 2 回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 平成 31 年 2 月 16 日（土）10：00～12：00
- 開催場所 栗東市立図書館小会議室
- 出席者 澤絢子、小幡庫士、奥野初恵、國松完二、大屋邦代、宗本和子、井之口哲也
青木春美、伊丹佳美
- 事務局 教育部長（館長兼務）、図書館副館長、課長補佐、係長
- 欠席者 1 人
- 傍聴者 0 人

概要

1. 開会

会長挨拶

2. 協議事項

- ① 副会長の選任について
- ② 平成 31 年度図書館運営方針及び事業計画について
- ③ 栗東市立栗東西図書館のあり方（案）について
- ④ その他

3. 閉会

部長挨拶

1. 開会

黙祷 佐々木元秀委員の追悼
新任委員、奥野初恵氏より挨拶
委員自己紹介
事務局紹介

●澤会長より挨拶

少子高齢化が進み、働き方改革が推進される中で、知的要求を満たし心豊かに市民が生活できる場を提供できるよう、栗東市図書館の充実発展を目指し、特に今回は、西館のあり方ということに重点を置いて、新しい時代に良い方向を目指していけるよう、ご意見をお出しいただきたい。

2. 協議事項

① 副会長の選任について

國松完二氏を会長推薦、全会一致により選任。

●國松氏就任挨拶

栗東市立図書館は、滋賀県の図書館の中でも、特に利用率の高い地域。ぜひいろんな形で応援したい。現在、橘大学で司書課程を教えており、栗東市出身の学生もいる。若い人たちが本を読まなくなっていると言われており、そういう部分でもお手伝いできればと思っている。

② 平成 31 年度図書館運営方針及び事業計画について

資料に添って事務局から、図書館基本運営方針及び事業計画、予算額概略（案）の説明。

（委員）消費税アップ、本館の新聞雑誌は金額が上がっているが、西館は変わらず。その分、雑誌数を減らすのか。

（事務局）予算は両館の合計としてプラス 1 万円。資料を作る際、館別に分けて項目を立てたため、このような書き方になった。

（委員）切手代、金額は上がっていない。郵送するものが減るのか？

（事務局）通信運搬費は利用実績による。現在 4 名の利用実績からの予算である。

（委員）「第 2 次栗東市子ども読書推進計画」、「学校、園との連携強化」、もう少し説明を。

（事務局）今年度から職員が、兼務辞令で学校図書館のリニューアル事業に入り、併せて、子どもに本を手渡す大人を増やす事業を計画。今年、児童館の先生の研修講座に 1 回、幼保の PTA に 2 回、児童館の親子対象に 2 回行った。来年度は幼保の先生の新人研修の予定。

（委員）図書館職員から話を聞いて、読み聞かせの重要性を知り、図書館に熱心に通ってくださっているという話も聞いている。

（委員）予算の報償費に、来年度は 53 千円付いている。具体的な計画はあるか。

（事務局）読み聞かせボランティア育成 2 万円、栗東出身の日本画家の定家亜由子氏の講演会 3 万円、氏は平成 32 年に市の観光大使に就任予定、中高生向き行事に 3 千円。

（委員）「子ども読書推進計画」は来年度が最終。三次計画はどのように策定されるのか。県内では図書館が中心に策定しているところが多いが。

（事務局）主管は生涯学習課。幼稚園や、ひだまりの家など、関係団体が会議を重ねて策定。ただ、生涯学習課では「本のことはわからない」と困惑しており、積極的に関わる。

（委員）国、県は第四次策定。国の重点目標は大きく二つ。高校生、ヤングアダルト世代の読書率の低下をどうにかすること。あと、就学前の子どもの読書格差、ブックスタート後の継続的な読書につながっていないことを親の問題として重視している。（三次というのは）どうしても二次の延長になるが、地域の実情に合わせた実効性のあるものを作ってほしい。

（事務局）いろんな部署が、どうしたら子どもが本を読むかと悩んでいる。図書館の専門分野なので中心的に進めていきたい。

③ 栗東市立栗東西図書館のあり方（案）について

事務局から「あり方」の説明。

（委員）座席を増やすために書架を取り除く、イコール蔵書数は減るという理解でよいか。

（事務局）限られた予算の中で、西館の今の蔵書数を保つことが難しい。地域館として必要な本を収集するため、全体の量を減らして新しい本の割合は上げる。児童書はそのままの量で、効率的な蔵書構成を目指す。

（委員）団体作業室は、どういうときに誰が使うのか。

（事務局）学校支援のための団体利用図書、選書用資料が並ぶ。あとはボランティアの活動拠点。図書館ボランティアマロンは本の修理をしているが、器材や本を置く場所があれば活動や人数も

増やせる。西館は便利な場所にあり、他のグループも活用できる。運営計画の中で使い方を検討する。

(委員) その部屋は完全に仕切られた場、常設なのか。大きいスペースなので、使っていない時は一般の人が使えたらいいのでは。

(事務局) 常設の予定。現在ある会議室で、おはなし会や対面朗読を行っている。賃借の建物では、区切りについては現在の案を大きく変えることが難しい。大きな壁や防音の壁は、消防法の関係でスプリンクラー等付ける必要があり、設置できる壁はパーティション的なものになる。新設する部屋は、空いている時は一般の人が使えるようにするのも一つの考え方。

(委員) ここの壁にグッと寄りかかったら危ないのか。

(事務局) 業者に聞いた話では、押しても倒れない。

(委員) 図書の充実や学校支援は、国語の単元の中に並行読書もあり、ありがたい。

守山の図書館は駐車場も入れないほど盛況で、道路も渋滞している。中は木の建物でゆったりしたスペース。一階は児童書中心で、低い書架や、ガラスで囲まれた音の出ないようなスペースがある。二階には蔵書と、斬新な点は学習スペースがあり、いっぱいだった。テラス席など座れるスペースが多く、座席は8、9割埋まっていた。西館でも例えば、壁沿いに薄い机を作ったら、たくさんの方が座れるのでは。

(事務局) 守山の図書館は座席が300あり、自分が行って座る場所があるということが成功だと思う。西館も、自分の居場所がある図書館、というイメージを作っていきたい。いろいろな年代の方が使える工夫を考えなければいけない。

壁面の活用について。床荷重の構造上、壁面だけ高書架にできる。壁の書架を撤去すると、本も多く減る。壁に向かった席は、一人で落ち着ける利点もあるので、検討してみる。

(委員) 学校図書館を支援する一方、学校にも図書室がある。授業に必要な本を図書館で多く揃えても、各学校が一斉に全部借りて、全部返されて、その後は借りられない。学校図書館で集めた方がよいのでは。

(委員) 現状は、担任が同じ作者の作品や同じ主題の本を集めている。一校の単独の図書では全然足りない。

(委員) ある小学校の図書室には、昔ばなしのセットが3つあった。自分の子ども時代の文学全集もあり、もう装丁が灼けていた。選書や購入に図書担当者のアドバイスは無いのか。

(事務局) 学校図書館のリニューアル事業で、図書館職員がまず取り組むのは除籍。次に、子どもが使いやすい分類配置、それを全12校実施。カリキュラムの話は、学校司書と先生との連携になるが、それは次の段階と考えている。学校図書館の蔵書は1万ほどで、学校単独では、子どもに本を行き渡らせることは難しい。

(委員) 西館と学校図書室、それぞれの役割分担、方向性はあるのか。

(事務局) 大人の読書は個人的なものだが、子どもの読書推進には、大人の関わりが必要であることは、読書推進会議でも共通の認識。図書館をその拠点として、気軽に相談してもらいたい。栗東は近隣市に比べたら取り組みが遅れているが、運営計画の中でも、子どもの読書推進の一つとして学校図書館支援があり、西館のリニューアルでその役割を明確にする。西館が開館した時、栗東市の子育ての中心として児童書を充実するということで、子どもが賑わう図書館になった。

全然借りられていない本棚がある。一回しか借りられてなくても、図書館としては絶対に必要な棚ということがあるが、その役割は本館に任せて、西館には、暮らしに根ざした、園芸、病気、家計など、利用されている本を集中して置く。

(委員) 様々な年齢の子どもに必要な本があるだろうが、西館と学校図書館、効率よく提供できる仕組みを考えてもらいたい。

(事務局) 限られた図書費の中で、職員が意見を戦わせながら選書している。意見をいただいて収集していきたい。

(委員) 西館の利用者から、具体的に要望の声があれば教えてほしい。

(事務局) 新聞や雑誌についての要望がある。毎日の生活として、定番の席で新聞を全部読む、雑誌をゆっくり読む方もいる。閲覧利用は統計が無いので、目で利用状況を見て捉えている。

新刊が入らないという声もある。また、子どもに伸び伸び本を読ませてやりたいという子育て世代の意見と、静かに本を読みたいという高齢者世代の意見とのせめぎ合いがある。席の配置を工夫する。

(委員) 全国的なことや広い意見というよりも、身近な方の望む図書館を作っていただきたい。

(委員) この「あり方」は、この場で承認したあと、どういう扱いになるのか。

(事務局) 次の5月の協議会で修正し、次に教育委員会へ提案。運営方針の中で西館についてはパブリックコメントを受けており、「あり方」はその実現方法。最終は議会へ説明。

(委員) 平成32年度の賃借の期限後、契約は継続する前提なのか。西館は図書館として使いにくい建物で、この規模なら普通、10万冊置けるが、床荷重が圧倒的に弱い。通常、図書館を作るときの床の加重は1平米800kgぐらいで、スーパーとかは300kgぐらい。通常の半分以下の強度しかなく、低書架のみで7万冊しか置けない。

(事務局) ウイングプラザは栗東都市整備(株)の所有。強度のことは建物の構造自体に掛かることで、大きな予算が必要。特定事業として市に認められれば計画できるが、関係部署とも協議も必要、財政的には厳しいかと考えられる。

(委員) 「あり方」は、教育委員会までは報告されるのか。

(事務局) 教育委員会のあと、部長以上が出席する総合調整会議で報告事項として出し、そこで市として了承、となれば、最終、議会での説明というスケジュールになる。

(委員) 図書館の根幹に関わる部分であり、市役所、関係機関とも協議いただきたい。

(委員) 本棚と本は常時、床に荷重が掛かる。構造計算して置けないことになっているのか。

(事務局) 開館時から、四段目には本をたくさん置けないと言われ、低書架には本を三段入れ、四段目は表紙見せをしている。そこが置ければいいが、見通しがいい、手に取りやすいという声もある。

④ その他

(事務局) 昨年11月、新しく開館した守山の図書館で県内図書館協議会の交流会が開催された。当館からは澤会長と谷郷副館長が参加し、國松副会長も別の協議会から参加されていた。交流会及び、守山のことをお話いただきたい。

(委員) 図書館というよりは、高級リゾートホテルというイメージ。スペースが広く、自然に包

まれた、いい雰囲気の本館。学習室、自由に子どもたちが寄って勉強できる場がある。子どもたちが図書館に親しむ第一歩として良いが、今後は、勉強だけでなく、本に親しみ、関心を持ち、読書意欲を高めることにつながれば良いと思った。

他の市の取り組みの紹介もあった。電子書籍で読書欲に応える、希望者には読書通帳を作って読んだ本の履歴がわかる、など。各図書館が創意工夫して、市民の要求に応えるように素晴らしい展開をしていると思った。

しかし栗東には、今まで積み上げた良さや特色がある。職員が園や学校に出て、直接話し掛けたり、読み聞かせをしている。おはなしボランティアも長年、懸命に取り組んでいる。栗東の特色を大事にして、他市の取組みも参考にさせていただけたら。

(委員) 交流会でも、守山は、いいという方と、図書館らしくないという方と、評価が二つに分かれた。入っても落ち着かない、ゆっくり本が選べない。野洲の参加者が、新聞には県産材を豊富に使用と書かれているが、野洲図書館と比べると、図書館家具が安っぽいと言われた。確かにその通り、栗東、野洲、草津も、木製家具を中心に重厚な作りだが、それと全然違う。守山は図書館を新しく作って、ようやく周辺の三市の利用に追いつきそうな状況。非常に賑やかで、今の栗東と同じぐらいの利用、年間で90万冊ぐらいの貸出になるだろう。

守山は、県の館長をしていた時に「やらないでほしい」と思っていた、学習コーナー、読書通帳、自動貸出機、を全部導入された。座席は、半分ぐらいの学生は、スマホ利用に夢中で、大人の利用の席まで占領している。開館直後で職員が利用のコントロールが仕切れていない状態だった。今後は落ち着くかもしれないが。

守山の図書館のオープンで一番困るのは周辺の三つの市かと思った。草津ではすぐ後の12月議会で、ああいふスペースを作れないかと質問が出た。これまでの県内の図書館40館ほどとは異質な館ができた。あとは、どれだけ新しい本を収集できるかが課題。開架には18万冊ぐらい置けるが、棚はガラガラで本が足りない状態。

(事務局) 栗東に来る利用者の感想も、同じような内容。いいところは学んで、栗東らしさを大事にしていきたい。

(事務局) 目標値に対する評価、前回のご意見を「外部の意見」枠に入れた。平成29年度、目標値に対して厳しい結果で、図書館サービスを丁寧に検討する必要性を感じている。来年度は15年ぶりに司書職員の採用があり、新たなサービスをどう展開できるか試される年になる。業務については一層精査していきたい。今年度は基本に立ち返って、蔵書(構成)の見直しを行った。棚の本を精査したことで開架冊数としては若干減っているが、ボランティアの書架整理もあり、棚が整理されたことで、利用者から、新たな本と出会えた、等の声を聞いた。現物の本に出会えることが図書館の良さであり、これを継続し、本への信頼を一番大事にして、目標値を上げたい。

図書館はいいことをやっているのにPRが下手と、教育長からも言われている。来年度はPRを強化して、広報とも相談、新聞やケーブルテレビ等で取り上げてもらって、新しい利用者呼びたい。

図書館の貸出冊数は全国的に下がっている。地味かもしれないが、新たな取り組みを進めて皆さんに使ってもらえる図書館にしたい。

今日の添付資料について。レファレンス記録の抜粋と、「暮らしと図書館講座」のチラシ。図書

館に来ていない方が図書館に興味を持てるよう、栗東市の取り組みや良さを知る講座を、初めて計画した。来年度も継続開催したいので、テーマのご意見があればお寄せいただきたい。

3. 閉会

●加藤教育部長（館長兼務）より挨拶

栗東市は本館と西館と二館を運営しており、来年度の事業計画と運営方針、特に西館については「あり方」を来年度詰めていく。本館は、開館後30年以上経っており、この2年で屋上防水工事が終了、来年度は冷暖房改修の予算が確保できた。長寿命化計画を策定、維持していきます。また、図書館は文化ゾーンにあり、博物館との連携が重要である。この2年間の3館合同（※自然観察の森も加える）事業、これを活かして進める。来年度の図書館の司書の増員、新しい職員が入って、違う流れが出てくることを期待している。子ども読書推進計画は、いい形になるよう、図書館も入って進めたい。協議会の委員の皆さまからもご意見をいただきたい。本日はありがとうございました。

（事務局）これを持ちまして第2回図書館協議会を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

次回

平成31年5月25日（土）10時～12時、本館小会議室